

髄膜腫
meningioma

患者：75歳・女性
主訴および臨床経過：糖尿病にて内科通院中，痴呆症状が出現し脳神経外科を受診した。

【診断および経過】

画像所見より髄膜腫と診断され，手術目的で他院に転院した。

【造影のポイント】

髄膜腫は髄膜に存在する細胞，特にクモ膜の表層細胞より発生する良性腫瘍である。また，被膜に覆われた腫瘍で周辺の脳組織を圧迫しながら緩慢に発育するため，自覚症状出現時にはかなりの大きさに達していることがある。発生部位は傍矢状部，大脳鎌付近が全体の1/3と最も多く，次いで大脳穹窿部，蝶形骨縁，中頭蓋窩，嗅窩，鞍上部，傍鞍部，後頭蓋窩，側脳室，小脳などがある。臨床症状は発生部位によって異なり，頭痛，麻痺，てんかん発作，視力障害，言語障害などがある。

髄膜腫は通常手術的に全摘可能である。しかし発生部位によっては主要血管との強い癒着のため全摘不可能の場合があり，再発率が高い。

CTでは境界鮮明な類円像を呈し，造影CTでは比較的均一な濃染像を呈す。また，3D-CTAでは1回の撮影にて多方向から観察できるため，腫瘍と周囲血管，骨の立体的な位置関係が明瞭に把握でき，手術前のナビゲーション（navigation）として有用である。

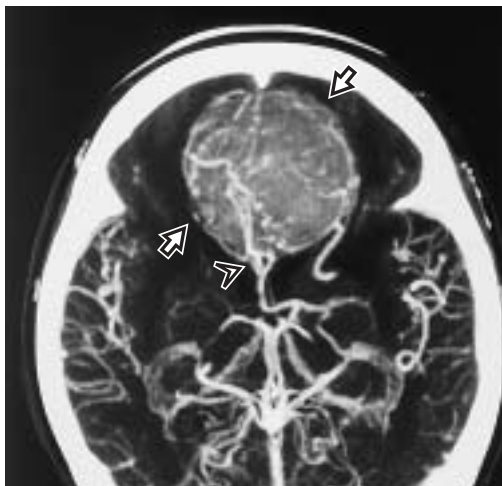


図1 MIP画像
腫瘍に流入する動脈（➤）を認める。淡く濃染された腫瘍像を認める（⇨）。



図2 VR画像
前大脳動脈が腫瘍直上で右上に圧排されている（➤）。

【スキャン条件】

装置：GE Hispeed advantageZS
管電圧：140 kV
スキャン時間：1 sec/rot
ヘリカルピッチ：3
管電流：170 mA
スライス厚：2.5 mm
画像再構成間隔：0.65 mm

【造影条件】

造影剤：オムニパーク 300
注入量：100 mL
スキャン開始時間：20 秒
注入部位：右肘正中皮静脈
注入速度：3 mL/sec